

平成27年度木材利用推進「全国会議」の概要

— 木の街づくりの効果と推進するための提言 —



日時：平成27年7月31日（金）13時から17時30分
場所：木材会館 7階ホール（東京都江東区新木場 1-18-8）

（木材利用推進中央シンポジウム）

1 公共建築物・街づくり等木材利用推進の取組み

（1）国の施策・取組み

- ① 林野庁 林政部 木材利用課 吉田 誠 課長
- ② 国土交通省 大臣官房官庁営繕部整備課
木材利用推進室 板橋 薫 室長
- ③ 文部科学省 大臣官房文教施設企画部
施設助成課 木村 哲治 課長補佐

（2）講演「木材利用新時代の取組」

①木の街づくり事例とその効果と今後の展開方向

～木の街づくりを推進するための提言1～

講師 国立研究開発法人 森林総合研究所 研究コーディネータ 木口 実 氏

木の街づくりの事例として、大規模商業施設や防耐火地域の木造店舗、公共施設のウッドデッキ・エントランス、高速道路サービスエリア、木製ルーバー、木製カーテンウォール、木製遮音壁・ガードレール等の事例と評価について解説し、木の街づくりへの提言として、
(1)都市における木造建築物では、1) CLT の普及、2) 耐火部材の開発・普及、3) 建築法規に柔軟に対応可能な木質系混構造による建築の推進、4) 一般流通材を活用した低層非住宅建築物の木質化
(2) 木製外構材では、1) 灰色が屋外での木材の自然の色調、2) 迷わず耐久化処理、3) WPC、熱処理、樹脂処理、化学修飾等高性能木質建材の導入、(3) 木材を街で使うことのプラスアルファをアピールでは、1) 環境性、省エネ、2) 安全・安心・健康、3) 文化、精神、4) デザイン、広告 等を提案した。

②ヨーロッパの木造建築から『木と建築と社会』を考える

～木の街づくりを推進するための提言2～

講師 法政大学 デザイン工学部 建築学科 教授 網野 禎 昭 氏

ヨーロッパの事例を辿りながら木造建築のあり方を持続可能性という視点から考察し、将来あるべき木造建築の方向性を議論するため、TOPIC 1 コンパクトで持続性のある街をつくる木造建築「資源枯渇が生んだ木造都市」として、都市周辺地域は開墾と消費により、森林資源の枯渇に悩まされてきたため、ローマ時代の集合住宅の例のように高耐久な中層木造が建ち並んでいる。TOPIC 2 多様化を支える構法設計の自由「木造 VS 非木造の終焉さえも」では、様々な建物が木造化されている中で、用途・規模に応じて構法も多様で枠組壁構法、軸組工法、面構造構法を取り混ぜて建てたり、近年は、鉄骨造やRC造と木造のハイブリッド化も進み、木造現しによる木造らしさの追求はもはや主流ではなく、実利的な姿勢が木を身近な存在にし、新たな活躍の場を与えている。TOPIC 3 地域産業が活躍する仕組み「ハイコンセプト・ローテク」では、ドイツの Alpenhotel Ammerwald は、地元の 13 名程度の職人が下小屋でホームセンターで購入した CLT などをユニット化して現場で組み立てて完成させている。省エネ化のために三層合板を利用して中に砂袋やロックウールを詰めるなど、ローテクであるがハイコンセプトを実現させている。TOPIC 4 網野禎昭+法政大学建築構法研究室の建築構法では、地域の製材工場で売れ残っていた 3~6m の芯持ち中断面製材 58m³ を使用し、マッシュホルツ構法による木造建築物、スギ平角材を活用した京都東山の青蓮院青龍殿大舞台の事例紹介があり、木で時代をつくることは、大きな建物をつくるのではなく、次世代が使えるもの、次に来る社会を考えてつくることが大切ではないかと結んだ。

~~~~~ 推進活動宣言 ~~~~~

（今回のシンポジウムは、「緑と水の森林ファンド」の助成を受けています。）